# 忠臣藏皮肉論

下

へ逆13
2.024
3上

鶴湖
暁柳
巣雨
昇堂
北海
柳三
松亭
樗園
重信
丁知
東陵
湖山
友山
主拙
董園
兎村
岷岳
遠齋
知足
雲樵
西城

へ 13
2024
巻 3

九月十五夜月見

## 下歌あつめ月見の歌八

うぶかぜうつくしむこころ

ある人は文句を類ごとにひさぐるカ泳げ出

たる文句は月の八山るよりハ二ヲまとんか

文句あり。ちゝれべ入てる月のうつはあるだ見

いたれるし。月うげるをうしよむしこいで

遊松亭菊丸

そて。月のふしこいてるかうつくしやふかうつまま

月のふよ入こうハまるまで。前文ホ

げんをうくさや

とりいるゆ。月の入て出ぬ。
その入てゐたるゆ。山しるしてゐるゆ。
出るを兼松子まるなれば。今翌ふ
月出あるべ。又夏の月紅なり
よむ。いふ。ゆ。のろ紅なり
ゆ。ゆ。の明げ。ろ。おろを糸。てさ。し。絞
あり。要兼妓紅。人形ちひの出ひ入。
それの仕手あ。ぐ。し。れば
夏て出る。ゆ。れ此所の夏。おる
ぐ二階のひ。ゆ。の仕手。人
もりのいそ。て。ゆ。ゆ。ゆ。ある絞の向
兼要ふあ。ゆ。ゆ。この踊く

九段同

踊の世
助の文句

稚ぎて乗で琴菊養生今のひ。
ある人いふ。此養ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
る孫ハ踊れ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
此浄ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。

小法師ごとのとくの文句

なむあみだぶつと唱ふる中より つぎに三月こ
ろ 殺られ 死 ぬ ま で も ま ち ま ち 業 尺 八 も こ ま ぶ ひ つ
そ こ と ま ど ま し が
な ん も 業 を 業 ふ 気 と あ る と い ふ 坂 ま
ち 所 の 所 の 京 な ま 物 ち ま ち 一 体 一 日 八
ま ま 坂 み て た ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま
合 ま る 事 。 結 ぶ ま ま ま り へ ぶ ま 。 解 る ま
ま ま へ ば む ま ま ぶ 。 俗 ま の 終 ま 尺 あ の 正 業
ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま

くんぐへさるもあるべし。そなるの手拍。足が
はうひゝ人形のごとく。ぶゝもちぐふまゝ
ゝれども。我後ゝいおさせゝと笑ゐるこ
それふはきてたゝ那ゝあり。ひとゝせ妹
脊山の狩ゝ会の時。足が父の文ゝぶらせ
乃人形をはうひゝゝ入森の所殿まで。
あとのみよ。あげ後ゝうて孫ゝるあり。
去ばゝしておきあげゝ。手あゝ孫まよりて。
水を香んとひゝゆくよゝまとゝるとひゝゝ。
嫁の下より。紙の ゝ はのゝきれはゝと出さるゝ

おゝゝ花飛ゝさの ゝ ゝゝるゝ人ぺゝ物
一同よゝをもゝ手あもて感ゝゝ。ある日
父文ゝ弟ゝ病ゝ。ふゝて。ゝれゝ父ゝはゝ
郎ゝゝして。ゝゝ七をつゝひゝるゝぶゝの不
ゝて手月ゝぎゝゝ。ゝ物ゝゝゝるひゝゝ。
ゝもゝるゝ。我ふゝんゝ。
ゝゝるゝを父ゝゝゝ。あゝる日父文ゝ
病中ゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝゝ。
ゝゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ。

の人形よく我ゞをとゞけうひされば。
そこのかたりちゞちがふゆへよゝとゝ
ゝなど。皆拵ありて拵のゆへハそこ方が
はたらかうもハいまゞ拵出ゝたゝ紙の出
ざる義よ。爰ゝ義よ。爰ゝ紙の出るとゝふて合点
なりうゝ。ゝがはたらふかたちハ拵化合るく。
多ゝ拵ゝたちの名を考へゝおりかをあく。
ゝんされる出。拵拵をとる時はたく紙
乃出ゝるハ。洙ゝうおりひようざ写
体ゆへびうらして紙のく体を用ゝ軍

ゝよりて伝ゝと伝聞ゝるゝへ
拵ゝ多ゝ第あゝて。ゝ和の同ゝ面ゝりの
なりゝ。ゝゝ方ハおゝるゝて。紙の出る事
動和なるゆへ。人形ハゝがはたらいしゝく
はたらひても。伝ゝ義ゝくゝなれまよう。自
然ゝ人形のゝ義ゝ拵まよゝし。爰ゝ拵て
ゝゝ和のゝ所ゝ拵ゝいれゝゝ。ゝ拵
我世首よう。父ゝ伝ゝたちのゝくゝして
はたらひゝ。ゝゝにてゝ和の拳ゝる拵ゝと
ゆゝゝし。今ゝ方のゝ和せゝつゝ。伝

[illegible]と為らるを今既に
[illegible]月出し人形のひりくを
[illegible]て[illegible]人の[illegible]
[illegible]て我がはしふ[illegible]
[illegible]のつふ[illegible]
[illegible]のさびし
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]人の[illegible]
[illegible]者の
[illegible]
[illegible]
[illegible]

姉妹とうけうせ。武士の子孫なりを
さん〳〵後悔し。且ゆゝしの御ぶ法たを
感じ。そなるをおりひやるるのを過て。
その家仕業より及ぶ。まんないせ〳〵て
こびるつるるを似ぶ。丈夫おこて至
人の風と金ふせ。ぱくもなりたるを
功成名とげているを文。文学の乳
さるハ業なり。志ゆ。志ゆ。志の
先達も及ぶ。敬ゝ敬ゝ敬ゝ
くしなり。武ぶよりてハ及ばざ。は

湯ようゝてハ先ゝ実なり。波風を強ぎ
ぶるぶるぶるぶる。流れて。彼ゝきハめてその
一さぶをおりふぶ〳〵

十徴同

[illegible]

義を先ぶ人の意を解ると雖
撫して勧くなら言を退ぞまく

成人ふ中ゝの妙の大屋。本もうやみも
ぶをおさ。業ゆ秘ゝみ秘さ

一大事なるゆへ。義平が公を殺さんとする。
捕手の半略。おまつ 捕手なる後向こ。
こよし 抜濡りふさ服のつきて来ること
ものなり。元せ 抜こ ハ皮肉の間ヨ
あるこ人ア。抜こ人ハ悪人の新ハ土ふく。
義人の名ハ向し。義平 抜 後ろ
ふ新 と 抜こ。赤ふ とこ。義を名へ。
ふこ 抜この皮なり。こうふ ふ家の
ここ 抜こ ハ大将の公 下命ハ
ここ 刑 抜 ハ。義平の後ハ。
ふ命のこ ふりちて。其後こを勤ハ

刑抜この肉なり。よふ ふ て こ 家こ
こよるこもあるこ。こ 屋 こよるふも
あこ。こ 命 皮肉の間ヨ 抜こを
なこるふバ 時こ こ げ。場 ふ
さこ の新こ向 。此の捕手ハ
抜こ こ せんこの 義こ。ふこの
こと 抜こ こ 強なり。義平 抜
後こ人新こ ひも。此義平の後ハ。
さこ の 濡こ こ けて。こ ふ中ふ。
こ こ 義平所人るふ。捕手ふ

ぶんにん乱さてべたよろしし。姫路あるとと
ぶんを。ぶんをさげてのこ文。万の時む
ぶ時ちてきるもあれば。こ文を抜
こ文書。ぶんを乱れば。その弱をさげして
やとうふとふとを万。ちろしる
ぶちら。ぶと文句の仮名遣きるべし

十一段 同

拔の秀

栗栖剛と世弱紙強をせいさと長
留に在宮が俗へ紙法文

陣出は大乱なる。信長の文として長き
こ文は栗栖剛と世弱の到着とせんさるなり。
世間のたくさんとして拔て書こる。ちんん
母浮曰和は命中後よりべて文。長き
と拔異し。文句は猶ありてあるものこ
信長に直和つた書つが風剛繁とハちがう
ちゃ法の書ひみて。文句はこの云玄の河
和借文の文のひきこてるなど。紙ちぶきて
長を要とちる西のことをふこるるれば。ぶんる
て清きたるもちちゃ姫ちゃとうれら

竹田流の仕方たかう。近松の流ハ
一幕の内。拵云のよりと呼くよ位にて。
そうちょハ別なる役をおりひとせ。是
をうこぶハし。切おまいりて。大よ
あの拵ぞるをなり。是物の見を見ん
ぞるなり。初より中迄
見るお使ふもあるへれど。累ハいくで
なりけやと。そう流岩を待よりもち
るものなり。竹田の流ハたゞ色より。
物の拵ぞるらしおりハ合し。合るらと

おり人ハ拵ぞるをなりて。拵ぞる屋
家を。送ひ近ひ遠ひ。書るるものなり。
此当流義ハ。竹田流なれば。一日の岩
ぞる場。九月の拵おいてるせ
乃出合。初の拵合。人形出送又ちげく
して。是も是ひ物の使ぞるを詮とな
せり。近松流ハたゞ人ハ。悪人の汁器。初
拵ぞる岩と。二月又ハ三月ひ
みて。中器あるれ。たゞめて悪人と
ぞる義ひ。竹田の流ハひをまくの

うちよ。ぜんぜうあてしなる。ゆえんの助の
ち形用よ。まこと。紙ハ敬切なれ。ゆえんなく。
形切よ。かなまと。書してなんと。
又ハ形用ゑ。れの敬切の俗しなる。
紙。ぜんを町のもの。ゆえんなく。又なんうへる
文句。たるゆをかしてゑ。なれば。きこと
なゑ。ぜんゑ。ゑ。脇機。おう変のりの
あるべゑゆ。加治。ゑ。ゑ乃俗と
なゑば。ゆえんの助ち形用ハ。敬切のまと
ゑて。ぜんゑ。ゑ。ゑ。